

「頭頸部 (HEENT) の機能障害におけるオステオパシー的考察」 発行のお知らせ

本書は、Michael L. Kuchera, DO, FAAO と William A. Kuchera, DO, FAAO の共著による教科書シリーズのうち、頭頸部の機能障害をテーマとした 1 冊で、米国のオステオパシー大学で広く使用されています (原著: Osteopathic Considerations in HEENT disorders)。

HEENT は Head (頭部)、Eyes (眼)、Ears (耳)、Nose (鼻)、Throat (のど) を表しますが、これらにまつわる症状の訴えは日常よくみられるものです。しかし、自律神経系やリンパ・循環系、そして内臓と体性の一次的、二次的関連が特に密接に関わる部位であるため、病態の理解や施術の組み立てには体系的なアプローチが必要となります。

本書は多くのイラストを用いて、頭頸部の解剖学的、機能的な特徴を説明し、この複雑な部位へのアプローチ法と多くの徒手治療について詳述しています。特に、手技のセクションは頭頸部のみではなく、胸郭入口や胸椎、胸郭も網羅しており、日常の施術を再確認するにも役立ちますし、頭頸部の機能障害の理論的な理解とともに手技の実際を学ぶのに最適な教科書となっています。さらに、付録として図表のまとめや略語表、アメリカオステオパシー学会 (AAO) による診療録フォームなども加えられています。

最後に、原著のミスプリントなどを著者の了承を得て修正した箇所があること、訳注にも記していますが、原著に完全に忠実であるより内容的に正しい翻訳を優先した部分があることをお断りしておきます。

なお、この本は全日本オステオパシー協会が発行しており、一般の書店では入手できません。

「頭頸部 (HEENT) の機能障害におけるオステオパシー的考察」

W. A. クチェラ、M. L. クチェラ 著

星野優子 M. D. 訳

森田博也 D. O. 監訳

全日本オステオパシー協会発行

A4 版 321 ページ

定価 18,000 円 (税抜き)

目次

第1章：頭頸部に関連する全身性疾患におけるオステオパシー的考察.....	1
第2章：風邪とその他の上気道感染におけるオステオパシー的考察.....	71
第3章：オステオパシー的治療と徒手治療の戦略.....	93
第4章：関連する領域的な体性機能障害の診断と記録.....	123
第5章：OCSD アプローチ：オメオスタシス、治癒、症状緩和のためのテクニック（HEENT）	173
付録	
I. 参考資料	
a. 本書の略語.....	233
b. 図の目次.....	236
II. 頭頸部の解剖.....	243
a. 頭蓋骨、縫合、孔、関節.....	244
b. 頭頸部の筋・筋膜構造.....	252
c. 神経要素に関連した解剖.....	269
d. 血管、体液要素に関連した解剖.....	279
e. OCF（頭蓋領域のオステオパシー）アプローチによる診断.....	285
f. ケアモデルのための局所的考察.....	295
III. チャップマン反射.....	298
IV. Jones（ジョーンズ）カウンターストレイン.....	303
V. 筋骨格系の検査フォーム.....	306
a. 入院用構造的.....	307
b. 外来患者 SOAP.....	315
c. 外来患者 単一臓器システム（SOS）.....	318
d. 集約的記録フォーム：頭蓋.....	321
索引.....	323

目次：オステオパシー・マニピュレーションテクニック

交感神経テクニック

チャップマン反射治療	176
T1-4 間接法靭帯緊張バランス (balanced ligamentous tension:BLT)	177
上胸部の非中立位に対する直接法 HVLA	178
第1肋骨、直接法 筋エネルギー	179

副交感神経テクニック

第Ⅲ脳神経に対するイニオンテクニック	180
翼口蓋神経節テクニック	180
後頭乳突縫合テクニック (第Ⅸ、Ⅹ脳神経)	181
C2 体性機能障害に対する BLT	181

脳神経テクニック

前頭骨リフト (第Ⅰ脳神経)	183
イニオン/錐体蝶形靭帯テクニック (第Ⅲ-Ⅵ脳神経)	183

膜緊張バランスによる一連の側頭骨リリース (第Ⅲ-Ⅺ脳神経)

後頭乳突縫合 (occipitomastoid suture:OMS) リリース - V スプレッド.....	185
頭頂切痕リリース	185
頭頂骨リフト	186
頬骨リリース	186
S-S ピボットリリース.....	186
顆部の除圧 (第Ⅻ脳神経)	188

他の神経テクニック

C3-5 への FPR (横隔神経 OMT)	189
横隔神経 (神経抑制)	190
眼窩上・眼窩下神経への反対刺激	190

筋膜経路を開く- 上胸郭入口

上胸郭入口に対する2ステップ直接法	194
上胸郭入口の直接法マニピュレーション	195
上胸郭入口の直接法 MFR.....	196
上胸郭入口の間接法 BLT.....	197

筋膜経路を開く- 下胸郭出口

下胸郭出口の直接法 HVLA.....	197
---------------------	-----

下胸郭出口の直接法 MFR.....	199
下胸郭出口の間接法 BLT.....	199
軟部組織の経路の解放	
後頸部の軟部組織.....	200
舌骨を含む前頸部アーチの筋膜リリース.....	201
横隔膜のドーム化	
直接法筋膜リリース (myofascial release: MFR) 腹部横隔膜の再ドーム化.....	202
A-P 間接法 MFR 腹部横隔膜の再ドーム化.....	202
リンパ静脈系と免疫系のモビライゼーション	
Ruddy 筋エネルギーポンプと頸部のバリエーション.....	204
Ruddy 相反筋エネルギーポンプと頸部のバリエーション.....	205
Ruddy 筋エネルギー関節テクニック-肋骨バイブレーション.....	206
胸筋の牽引.....	208
古典的な胸郭ポンプ.....	208
脾臓ポンプ.....	210
副鼻腔ポンプ.....	211
CV4 テクニック.....	212
局所ドレナージテクニック	
顔面/頸部のエフラージュ.....	212
耳のドレナージ.....	213
この領域におけるその他のテクニック	
外眼筋の活性化を用いた OA の等尺性収縮後弛緩 (ポストアイソメトリック・リラクゼーション).....	214
前頭鼻骨縫合リリース.....	215
下顎ドレナージ (Galbreath テクニック).....	215
前頭骨/蝶形骨-上顎骨リフト (SBS の除圧).....	216
後頭底 (SBS) の除圧.....	217
胸鎖乳突筋 AC7 と AC8 に対するカウンターストレッチ・テクニック.....	219
胸鎖乳突筋 AC7 と AC8 (急性斜頸) に対する改良 Ruddy カウンターストレッチ・テクニック.....	219
静脈洞ドレナージ.....	223
表 5.1 も参照 テクニックとその適応の索引.....	229